

心膜炎等に対する コルヒチン の使用について

実施内容	急性心膜炎、再発性心膜炎等に対し、炎症抑制および再発予防を目的としてコルヒチンを経口投与する。
対象患者	・ 急性心膜炎と診断された患者 ・ 心膜炎に伴う胸痛や炎症反応の持続を認める患者 ・ 標準治療（NSAIDs等）単独で十分な改善が得られない患者
承認日	2026年7月8日（承認外医薬品使用評価委員会 承認）
実施期間	承認日以降、継続的に実施する
目的・概要	心膜炎は胸痛、発熱、心嚢液貯留等を伴う炎症性疾患であり、再発を繰り返す場合には患者のQOL低下や長期治療を要することがある。コルヒチンは微小管形成阻害作用を介して炎症細胞の活性化を抑制する薬剤であり、国内では主として痛風発作等に使用されている。一方で、海外ガイドラインおよび複数の臨床試験において、急性心膜炎および再発性心膜炎に対する有効性が示されており、炎症症状の改善および再発率低下が報告されている。
予想される 不利益と対策	【予想される不利益】 ・ 下痢、腹痛、悪心等の消化器症状 ・ 血液障害 ・ 肝機能障害 ・ 筋障害、横紋筋融解症（特に腎機能低下時や相互作用時） ・ 薬物相互作用による血中濃度上昇 【対策】 ・ 少量投与から開始し、症状および副作用を確認しながら継続 ・ 腎機能、肝機能、血液検査の定期的評価 ・ 筋症状出現時は速やかにCK測定および投与中止を検討 ・ 重篤な副作用出現時は直ちに投与を中止し適切な治療を実施
■ 問い合わせ先	イムス葛飾ハートセンター TEL：03-3694-8100（代表） （受付時間：平日 9:00～17:00）